

1 主題名 白旗の少女 〈 C－(18) 国際理解, 国際親善 〉

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

小学校学指導要領（平成29年告示）解説特別の教科道徳編では、「道徳教育においては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を前提に、人が互いに尊重し協働して社会を形作っていく上で共通に求められるルールやマナーを学び、規範意識などを育むとともに、人としてよりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はどのように生きるべきかなどについて、時には悩み、葛藤しつつ、考えを深め、自らの生き方を育んでいくこと」が求められている。さらに、第5学年及び第6学年の主として集団や社会との関わりに関することでは、「他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること」をねらいとしている。

今日では、外国人と身近に接する機会が増え、国際交流も活発化している。国際理解教育は、今日的な重要課題である。外国の歴史や文化に対する尊敬の念をもつようにする必要がある。また、日本人としての自覚をもって積極的に外国人と接したり、交流の場を広げて国際理解と国際親善の心を育てたりすることが肝要であると考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

事前調査 令和3年6月14日実施 33人	
質問事項	
日本人として、国際理解や親善のために、私たちにどんなことができますか。	・核兵器を使った戦争の悲しさを発信する ・ホームステイのチャンスがあったら生かす ・戦争が二度と起こらないように平和の大切さを訴える ・外国語の授業で、海外の国々の生活を理解する ・外国語の食文化を理解するためにブラジル料理を食べる
外国との関わりで、交流活動とは、具体的にどんなことだと思いますか。	・日本の文化を外国の国々に紹介する（映像） ・ホームステイ 外国留学 ・リモートで海外の学校と交流する ・海外の国々と手紙の交換をする

本学級の児童は、男女仲良く生活しており、友人関係も良好である。また、委員会活動などの当番活動においても、とても熱心であり、朝の校庭のライン引きを積極的に行うなど、教職員からも信頼を得られるように成長してきた。

社会科や外国活動の授業では、外国の国々のすばらしさには気づいている。しかし、上記の調査結果からは、国際理解や親善のためにできることが十分に理解されていないと捉えることができる。さらに、現状を踏まえると、交流活動の場が少なくなっている。以前は、市内に生活する海外の方々を学校に招き、食文化や衣装について理解することができた。とても貴重な体験であった。このような体験の場がなくなってしまった昨今、新たな交流活動の方法を検討する必要がある。そこで、平和の大切さを理解するとともに、国際親善の新たな方法を提案できる授業を展開したい。

(3) 教材について(教材名「白旗の少女」出典 東京書籍)

本教材は、太平洋戦争の末期、白旗を持って投降した少女が成長し、写真を撮ったカメラマンとの再会を追った話である。主人公の富子は、7歳の時に白旗を持って投降した自分の写真を、英文の写真集の中に見つける。それがきっかけで、写真を撮ったカメラマンに会いたい気持ちが募る。そして、とうとう43年ぶりに再会することができた。カメラマンに会えるまでの多くの人々の善意や協力とともに、戦争の悲惨さを繰り返さない努力をすることが、国際親善に繋がるという心情を育てたい。

3 本時の指導

(1) ねらい

・世界の人々と共存していることを理解し、国際親善に積極的に努めようとする心情を育てる。

(2) 準備・資料

・場面の絵 ・ワークシート ・アンケート結果 ・地図帳 ・戦争に関する資料

(3) 展開

☆言語活動を充実させるための手立て

主な活動と発問	予想される児童の反応	指導・支援の手立てと評価(○…評価)
1 戦争末期の沖縄の状況について教師の話聞く。 ○沖縄戦の状況 ○沖縄戦の悲劇 ○沖縄戦の経過	・戦争は悲しすぎる。 ・なぜ、こんなに多くの人たちがなくならなければならなかったのか。 ・二度と戦争をしてはいけない。	・沖縄が、なぜ戦場にならなければならなかったのかを教師の話から理解させる。 ・沖縄の人々が、どのような思いで毎日生活していたのかを理解させる。 ・航空戦の写真から戦争のむごたらしさに気づかせ、本時の意識付けとする。
2 資料「白旗の少女」を読んで話し合う。 ○この教材を読んで、心に強く残ったことを発表する。 (個人→全体) ◎ヘンドリクソンさんとやっと出会えた富子は、どんなことを思ったのでしょうか。 (個人→全体) ○富子は、この経験をもとに人々に、どんなことを伝えたいと思っているのでしょうか。 (グループ)	・戦争はなぜこんなに悲しいんだろう。 ・おじいさんとおばあさんは白旗を必死になって作ってくれたんだ。 ・43年ぶりに出会えたのは感動した。 ・多くの人たちのおかげでようやく会うことができた。 ・43年前の思い出を語り合いたい。 ・不幸な出来事を乗り越えて仲良くなりたい。 ・戦争は恐ろしい。 ・戦争は悲惨だ。 ・二度と戦争を起こしてはならない。 ・人と人の絆は素晴らしい。 ・平和な世界にしたい。	・太平洋戦争が激化している世界地図を見せ、戦争を繰り返すことで命、文化も全て奪いさってしまう現状を理解できるようにする。 ・アメリカでカメラマンを探そうとして平和行進に参加した富子の勇気に気づかせる。 ・両手両足を失ったおじいさんと目の不自由なおばあさんの富子に対する気持ちを資料から理解できるようにする。 ☆富子と再会したヘンドリクソンさんはどんなことを思ったのかについて考えるようにする。 ○外国の人々との交流活動を進め、親しくする国際親善の大切さについて考えることができる。 (ワークシート・発表) ☆富子が自分の体験から学んで発信しようとしていることについて考えるように助言する。
3 私たちに何ができるのかについて話し合う。	・人と人の絆を深めたい。 ・どこの国の人とも仲よくしたい。 ・外国の文化や人たちに興味をもち、学びたい。	・外国の人々と、もっと仲良くできる方法について気づかせたい。 ・日本の文化を伝える理由を考えさせる ・近年、日本の食文化が外国の人達に理解されていることを紹介する。
4 外国の人々との交流について教師の説話を聞く。	・外国のすばらしい文化を理解したい。	・県南の学校で取り組んでいる地元の人たちとブラジルの人たちとの交流を話し、外国の文化に対する理解の大切さを話す。

4 関連・発展

・学級活動や社会科の様々な場面を通して、平和の大切さ、世界の人々との共存の大切さを理解し、国際親善に積極的に努めようとする心情を育てる。